



校内弁論大会

7月7日、5、6校時に本校視聴覚教室で校内弁論大会が行われました。

本大会は、沖縄県高等学校総合文化祭における県大会への学校代表を決める大切な大会です。

弁士と演題そして内容を少しばかり紹介します。

○瑞慶山姫菜(1-2)「あたり前」

紛争や飢餓、犯罪等の世界情勢が現存する中で、日本の平和な日常においてあたり前とと思っている考え方について鋭く問題提起をしました。これからの社会を作り上げていく上で重要な視点だと思いました。

○池本翔生(1-3)「あなたに会えて」

ある場所ときっかけで出会った友人との関係について、その修復の過程から人との出会いの素晴らしさと“わかりあう”ことの大切さを教えてくれました。

○上原瑛美(2-1)「虹を掲げて」

多様な性差についての考え方、今後、私達が生きる社会でさらに大きくクローズアップされるであろう問題を、お互いに住みよい社会を作り上げていくことの大切さという視点で、人の“違い”について掘り下げました。

○石垣夏梨(2-3)「歴史を築き平和を築く一人として」

ペリー来航を起点としての沖縄の歴史的な背景を元に“平和”を論点にしました。さらに、複雑な本県の状況へのアプローチを若者のみずみずしい視点で分析しました。

○知念芽依(2-6)「いただきます」

動物愛護と人間のために命を捧げる動物たちへの鎮魂と思いやりについて深く考えさせられました。ペットを飼うものとしての自覚も再確認させられました。

○比嘉涼(3-1)「過去と今、そしてこれからを」

名護市の愛楽園にお住まいの方々に焦点をあて、社会の有り様を深く掘り下げた内容でした。人間の生き方や人を愛することの素晴らしさが伝わってくる内容でした。

○新垣咲良(3-6)「人の尊厳とは何か」

大病を患っていた身近な友人の死と自らの健康を元に、生きていることの素晴らしさについて述べました。改めて“生かされている”現在を精一杯“生きる”ことの大切さが身に染みしました。

本大会は、国語科の池村やす代先生を中心に前日までの指導及び運営を、当日は審査員を西里秀篤先生(審査員長)、平良留美子先生、山口栄臣先生、玉城千裕先生が携わりました。お疲れ様でした。

いずれの弁論も、人の「生き方」「命」のテーマで構成されており、客観的な分析から将来への展望を見据えた高校生らしい、若者の視点が随所にちりばめられていて聞く者の琴線に触れる内容でした。ご指導のおかげでG校生徒の知性と教養が存分に発揮されたものだと感じました。

その中で優秀賞が、瑞慶山姫菜(1-2)さん、最優秀賞が上原瑛美(2-1)さんに決定し、上原さんが本校代表に選出されました。

